

M. S.（社会システム学科・2 年次生）

Ⅰ. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、小さいころから英会話に通っていたこと、また、両親共に海外が好きで今までも何度か海外へ旅行したことなどの理由から海外の学校に通うことにとっても強い憧れを持っており、中学生の頃から留学をしたいと思っていました。そこで、私は、中学生の頃に地元で行われた留学プログラムに挑戦しましたがテストに合格することが出来ず、行くことは出来ませんでした。そのため、大学生では絶対に留学はしたいと考えており今回、留学することに決めました。また、私はあまり積極的な性格ではなくコミュニケーションをとることが苦手なため、オーストラリアで沢山の経験をし、こんな自分を変えたいとも思っていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学前は、主に単語の勉強や TOEIC の勉強を中心に行っていました。ビザ申請の手続きは、自分で行いました。ネットでビザ申請の方法を調べると、ビザ申請の時に出てくる項目が日本語で説明してあるものがいくつもあったのでそれを見ながら手続きを行いました。しかし、とても時間がかかったので時間に余裕がある時に申請を行った方が良いと思います。また、ビザ発行までにとっても時間がかかるという話を聞いていたため、少し早めに行いましたが、取得申請をしてから 1 分もたたずに許可のメールが届きました。その他にも沢山やらなければならないことがあり大変でしたが、オーストラリアと一緒に行く子たちと助け合いながら行いました。

③ 現地到着後

オーストラリアは空港での検査が厳しいと聞いていましたが、全くそんなことはありませんでした。空港からホームステイ先へは、送迎を頼んでいたため送って頂きました。今回 5 人でオーストラリアへ行き、私はホームステイ先へ着くのが最後だったため、ホームステイ先まで 1 時間半以上かかりました。到着してからは、自己紹介をし、sim カードを買いにスーパーへ連れて行って下さりました。また、その家には 8 歳の女の子がいたのでその子のお迎えにもついていきました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

学校の建物はとても綺麗でした。授業が始まるまで図書館にいたことが多かったのですが、私達が通う建物からは少し離れており徒歩 5～10 分ほどかかりました。学校最寄りの駅・バス停からは 10～15 分かかりました。また、クラスは、私は DEP 4 からスタート

し 10 月～12 月はクラスの半分以上が日本人でしたが、1 月は DEP 5 に上がったこともあり半分以上が外国人でした。先生方はとても優しく、工事中でバス停の場所が移動しており分からなかった時はわざわざバス停まで送ってくださったり、ホームステイ先での事を聞いてくださったりなど本当に親切な方ばかりでした。

b. 授業内容、課題、試験

授業はペアワークが多く、文法などを学びました。ペアワークやグループディスカッションが多く、初めに座った席で一か月授業を受けるので、外国人の子の隣に座ると英語が上達すると思います。また、毎週 writing と grammar の小テストがありました。5 週間目に大きな試験があり、この結果でクラスが変わります。このテストはこれまでの 4 週間習ってきたことができるわけではなく、実力テストのような感じでした。毎月クラスが変わるので、沢山のひとと友達になることが出来ました。すぐに違うクラスになるのは少し悲しかったです。課題の量は先生によって異なり、DEP 4 の時は毎日課題がありましたが、DEP 5 の時はない時の方が多かったです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動には参加しませんでした。ほとんどの子が参加していなかったです。学校では月に何度かアクティビティが開催されており、Tambourine Mountain や Lone Pine Koala Sanctuary など色々な所に行きました。行くのに時間やお金がかかるところに、学校専用のバスで行くことができ、自分で払うよりも安い値段で行くことが出来るのでお得です。また、季節のイベントごとにもアクティビティが開催されていたのでとても楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

私は、留学中に一度ホームステイ先を変えました。初めの家は、3 人家族と日本人の留学生 1 人が住んでいました。Pacific Pines というところで最寄りのバス停にバスが来るのが 1 時間に 1 本と少し不便でした。しかし、休日には家族と一緒にイチゴ狩りや映画へと連れて行って下さったり、庭にあるプールでホストシスターと遊んだりしました。2 件目のホームステイ先は Parkwood という所にある 80 歳のファザーと 76 歳のマザーの 2 人暮らしのお家でした。年配の方 2 人ということもあり、とてもゆったりとした生活を送ることができました。トラムの駅まで徒歩 20 分～25 分でしたがその駅から学校までは 10 分で着くのでアクセスは良かったです。休日と一緒にどこかへ出かけるということはありませんでしたが、ルームメイトの誕生日パーティーやクリスマスパーティーでは沢山の親戚の方々が集まりとても楽しかったです。ファザーは料理がとても得意で毎日晚御飯がとても楽しみでした。また、どちらのお家にも専用のトイレとシャワールームがありました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月にはクリスマスホリデーという 2 週間の休みがあり、私は 2 泊 3 日でウルル（エアーズロック）を見に行きました。ウルルへはエアーズロック空港までゴールドコースト空港からメルボルン空港で乗り継ぎ、計 6～7 時間かけて行きました。生で見るウルルはとても迫力があり、本当に感動しました。日本から行くのはとても時間がかかるのでオーストラリア滞在中に行くことをおすすめします。年末は、ゴールドコーストで過ごしました。Surfers Paradise では 20 時と 0 時に花火が打ち上げられとても綺麗でした。また、長期休暇ではないですが、金土日を利用してメルボルンやシドニーへも行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

何気ない日常がとても楽しかったです。最初の頃は、英語でコミュニケーションをとることが出来るのか少し不安でしたが、クラスの子と冗談を言って笑い合うなど自分の英語の成長を感じることが出来てとても嬉しかったです。私は、海のない県に住んでいるので、友達と放課後海へ行ったり、海を見ながらスーパーで買ったチップスを食べたりなど日本では経験したことのないとても新鮮な毎日を送ることが出来ました。また、私にはホームメイトの子がおり、その子が帰る 3 週間くらい前から毎週末カフェや海へ出かけたり、ブリスベンに行ったりなど帰国前の大切な時間を一緒に過ごすことが出来ました。そして、特にマザーとファザーがあなたの英語はとても上達していると言ってくれたことは、本当に嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中つらかったことは、生活環境の違いです。私は初めの 1 か月でホームステイ先を変えました。その家で過ごすにつれてルールが厳しく思えるようになり、4 か月間この家で暮らしていくのは厳しいと感じたからです。例えば、門限が 17 時半でしたが、16 時ごろまでにはシャワーを終えておかなければならなかったため、放課後友達と遊びに行くということがほとんどありませんでした。もちろん、週末は一緒にお出かけなど楽しかったこともありました。ですが、授業にも集中出来ず、常に気を張っている生活は本当につらく早く日本に帰りたいときえ思っていました。ホームステイ先を変えることには少し抵抗があるかもしれませんが、ホームステイ先が自分には合わないな、おかしいなと感じたらすぐに変えても良いと思います。留学生活は絶対に楽しむべきです。当時はつらかったですが、今思うとこの経験は良い経験になり、自分の成長にも繋がったと思っています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カフェやショッピングモールの閉まる時間が早いことです。大体のカフェは 14 時半、シ

ショッピングモールは17時に閉まります。バスはあまり時間通りに来ることはなく、来ない時もありました。また、バスの運転が少し荒く、バス代も毎回乗る時によって異なることに驚きました。ハエが多かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。学校では、毎日パソコンを使って授業を受けます。私は、服を1週間分しか持っていかなかったのですが、ホームステイ先によって洗濯できる頻度は異なるので、持っていけるだけ持って行った方が良いと思います。ダイソーがあるので日用品もオーストラリアで買うことは出来ますが、日本よりも高いです。ゴールドコーストでは思っていたよりも雨が降ったので、折り畳み傘も必須です。また、クレジットカードを3枚持って行ったのですが、急に使えないこともあったので2枚以上は持っていくと安心だと思います。そして、私が持っていかなくて後悔したのがかゆみ止めです。蚊がとても多く、日本の蚊とは違って刺されるととてもかゆかったのでかゆみ止めを持っていくべきだと思いました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

この Semester 語学留学で伸びた力は speaking 力だと思います。初めは本当に自信がなくホストファミリーやクラスメイトに話しかけることが出来ませんでした。周りの人が沢山話しかけてくれ段々と自分に自信がつき最終的には自分から話しかけることが出来るようになっていました。また、私は授業中に発言することが苦手で英語の先生にもシャイすぎると言われたことがありましたが、留学後は自分の英語に自信がつき間違いを恐れず発言できるようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

今留学に行こうか迷っている人は行くべきだと思います。私は、この留学を通して沢山の貴重な経験をすることが出来ました。何もかもが初めてのことでしたが、その中でも笑いあったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、つらかったことなどどれも刺激的で私に大きな影響を与え、これらは留学したからこそ得られたものだと思います。留学に行く前は、不安でいっぱいでしたが、積極的に人と関わることで新しい友達ができ、様々な人と関わる事ができ留学生活が楽しいものになりました。この留学を通して人として成長することができたと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の目標はまだ明確には決まっていますが、卒業までに TOEIC800 点を目指し勉強を頑張っていきたいと考えています。また、英語を使う仕事につかなくても、勉強を続け、海外の人との交流をしていきたいと思っています。そして、世界の色々な国に一人で行けるようになりたいと考えています。

V. 写真



↑ホームメイトの子が帰国する前日に撮ったホストファミリーとの写真です。ホームメイトの子とは色々な場所に行きました。帰国してからも頻繁に連絡を取りあっています。ホストファミリーとマザーはとても優しく、沢山私に話しかけてくださいました。「私たちはオーストラリアでのあなたお父さん、お母さんだよ」と言われた時は本当に嬉しかったです。



↑この写真はクリスマスホリデーの時にウルル（エアーズロック）を見に行った時の写真です。気温が40度近くありとても暑かったですが、生で見るウルルは迫力がすごくとても感動しました。一生忘れることのできない旅行になりました。

M. H.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

中学生の時に短期留学でニュージーランドに行きました。その時に、現地で文化や習慣、歴史を学ぶ楽しさを経験しました。そのため、大学に入学する前はまた留学に行ける機会があれば行きたいなと考える程度でしたが、実際に大学に入学し英語で話す機会が増え、言いたいことがあるのに上手く伝えることができないと日々自分の Speaking 力の低さに悩んでいました。その時に、セメスター語学留学の制度を知り自分を変えるチャンスだと思い参加を決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

主に Speaking に力を入れて勉強していました。DMM というオンライン英会話のアプリを使用して、日々英語で話すトレーニングをしていました。また、YouTube や NHK の英会話フィーリングリッシュを見て日常生活で使用するフレーズも勉強していました。

ビザ申請手続きはお金を払って業者の方にさせていただくこともできましたが、ビザの取得にもお金がかかるため自分で行いました。ビザ申請の質問は全て英語で書かれているため不安でしたが、ネットでビザ申請について調べると分かりやすく説明されているサイトがあるため安心して行うことができました。

③ 現地到着後

空港からホームステイ先まではホームステイネットワークというホームステイ会社の方に送って頂きました。空港からホームステイ先までは約 1 時間かかったと思います。ホームステイ先に着いて少し休憩した後、ホストファミリーがゴールドコーストを案内して下さり、その後一緒にスーパーマーケットに行って SIM カードと交通機関を利用する時に使用する GO CARD を買いました。

オリエンテーションでは、語学学校のスタッフの方が語学学校だけでなく大学のキャンパス内も案内して下さいました。日本とは異なるのびのびとした雰囲気のカンパスで興奮したのを覚えています。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

キャンパス内にカフェ、ジム、コンビニ、バー、郵便局や図書館など様々な施設がありました。クリスマスの時期になると、家族や友人にクリスマスカードを書いてキャンパス内にある郵便局から日本に送りました。

語学学校の先生は、みなさん非常に優しくて相談するといつも親身になって聞いて下さいました。1タームごとに先生と話し合う機会があり、私の場合は苦手な Speaking の問題点や改善するためにより良い勉強方法などを的確にアドバイスして下さいました。

b. 授業内容、課題、試験

1タームごとにクラス分けがあり、私は DEP5 と 6 のクラスにいました。先生によって変わりますが、DEP5 は最初の 1ターム目がかなり大変でした。しかし、慣れると授業をしながらゲームやクイズ大会などをすることが多いため楽しく勉強できていました。しかし、DEP6 になると内容も難しくなり、試験の数や課題の量も多くなりました。また、DEP5 も 6 も毎ターム 5 週目に必ずプレゼンテーションがあるため、準備に時間がかかりかなり大変でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

現地の大学生と交流できる「バディープログラム」という活動があるとホストマザーが紹介して下さいました。一ヶ月間、毎週水曜日の放課後に集まってみんなで話して楽しんだり、バディーの方がヨガを習っていたためヨガをしたりしました。ヨガで一日の疲れをリフレッシュでき、また友人も沢山できたためおすすめです。

また休日に語学学校のアクティビティがあり、比較的安い値段で行けるため何度か参加していました。サーフィンをしたり観光地に行ったりするなど、毎回非常に楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーは非常に優しく、本当の家族のように接して下さいました。出かける度にいつも誘って下さり、そのおかげでホストファミリーの友人や両親など様々な人と関わることができました。夜ご飯はパスタや、カンガルーのお肉やソーセージを焼いてバーベキューなど様々な料理を作って下さいました。またホストマザーが日本人の方ということもあり、私がホームシックにならないように、週に 2、3 回程日本食を作って下さり、正月にはぜんざいを作って下さったこともありました。

ホームステイ先から語学学校までは、徒歩とバスで約 15 分でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月に約 3 週間の休暇があったため、2 泊 3 日でシドニーに旅行に行きました。私はオーストラリアのアボリジニという先住民に興味があったため、シドニーで有名な美術館や博物館に行きました。基本的にオーストラリアの美術館や博物館は無料で入ることができました。また、今回の旅の目的が年越しの花火を見ることだったので、少し奮発してオペラハウスでチケットを買いオペラを聞いた後、オペラハウスの外から花火を見ました。今まで見てきた花火の中で一番規模が大きく綺麗でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私が留学中に最も思い出に残っていることは、ウルル・カタジュタ国立公園に行ったことです。今回はツアーで申し込み、2泊3日のプランで行きました。ここはウルルという世界で二番目に大きい一枚岩があると有名で、日の当たり方でウルルの色が異なってみえるため非常に神秘的でした。また、この地域に住むアボリジニのアナング族の歴史や文化についてツアーで聞くことができ、実際にお会いすることもできたため非常に貴重な経験になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最初の頃は会話を聞き取ったり、話すことがほとんどできなかつたです。Speaking に力を入れて勉強していたため、少し自信があったにも関わらず英語が全く話せないと自覚した時は特に辛かつたです。特に最初のタームのクラスで意見交換をする時、私以外の人は次々と自分の意見が言えるのに対して、私は言いたいことがあるのに全く言えなくて悔しい思いをしました。その時に、同じクラスの友人から難しい単語を使おうとせず、簡単な単語を使って話すの良いというアドバイスをもらい、それを実行しているうちに気が付いたら少しずつ話せるようになっていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私のホストファミリーやホストファミリーの友人をみると育児や家事に対して積極的な男性が多いということが最も印象的でした。お互いがお互いを思いやりながら、育児や家事を同じ分量に分けて行っていて素敵なお関係だと思いました。

閉店時間に関して、開いてるお店もありますが、カフェなど閉まる時間が早いお店も多いため予め調べておくと良いと思います。また、お店が閉まるのが早いため夜はかなり暗くなります。治安は他国と比べると比較的良いですが、気をつけた方が良いでしょう。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

語学学校では、授業やテストでパソコンを使用するためパソコンは必須です。また、オーストラリアで使用できる変換プラグも必須です。あとは、普段使っている薬や日本で売っている薬を持っていくと便利だと思います。

私はインスタントのお味噌汁とお菓子を持っていきました。しかし、オーストラリアは食品に関する持ち込みの制限が厳しいため予め調べておくと良いと思います。また、高くなりますが現地のダイソーやアジアの食品を売っているお店でも日本食を購入することはでき

ます。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前と留学後でかなり変化したと思います。留学後、圧倒的に Listening と Speaking が伸びたと感じます。留学前は、ネイティブスピーカーの先生の授業を受けた時、理解できていないことが多々ありました。しかし、留学後はほぼ内容を理解することができ、英語で話すことに抵抗がなくなり楽しくなりました。また、積極的に発言もできるようになり、ネイティブスピーカーの先生からも英語力が伸びたと言って頂き嬉しかったです。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

色々な不安があると思いますが、少しでも留学に行きたいと考えているのであれば行くことをおすすめします。海外に行って英語を学ぶ方が習得も早く、似た意味の単語やフレーズのニュアンスの違いなども自然に学ぶことができるため語学力は絶対に上がると思います。また、ホストファミリーや友人と出会えたことは一生の思い出になりました。今も近況報告などをして連絡を取り合っています。

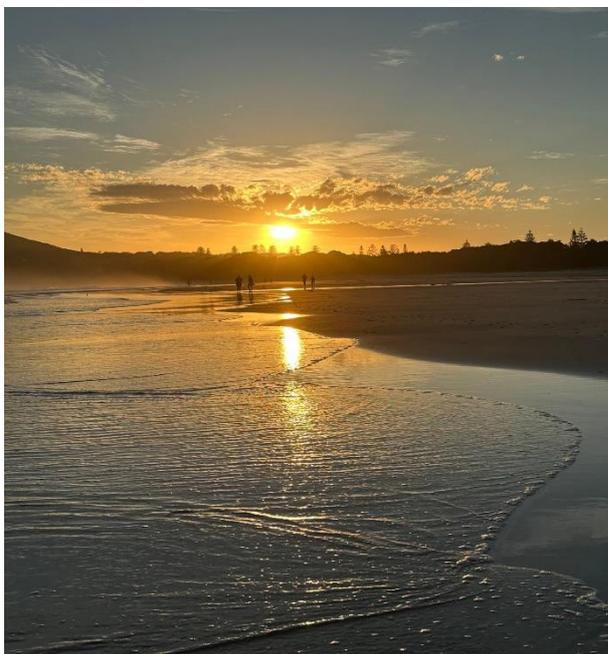
留学を通して様々な人に出会い、色々な考え方を知り、現地の文化や歴史、習慣を学び価値観や視野を広げることができたと思います。そのため、留学前と比較して性格やものの考え方がよりポジティブに変化したと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路として、航空業界か観光業界に就職しようと考えています。留学で培った語学力を活かし、日本と海外を結ぶ役割になることができたら良いと思います。

V. 写真



↑この写真は友人とバイロンベイに行き、ビーチで撮った朝日の写真です。朝日が昇り始める時の景色が今でも忘れることができないくらい、本当に綺麗で感動しました。日本にいる時はビーチに行き朝日を見ることがあまりなかったため、新鮮で朝活も良いと思いました。



↑この写真はホストファーザーの実家に行った時に、ホストファミリーとそのいとこと一緒に港近くのタワーに行った時の写真です。ここはメルボルンから離れたところにある島で、自然が多く海が本当に綺麗でした。

S. K.（英語英文学科・2 年次生）

1. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学に入学してから漠然と留学をしたいと考えていましたが、本格的に考え始めたのは1回生の秋頃です。これまで海外を訪れたことがなかった私は、学生時代に海外へ行き異文化に触れることで視野を広げ、将来の選択肢を増やすことと、実際に国際語として使用されている現地の英語を知り、英語運用能力を向上させることを目的に、セメスター語学留学に申し込みました。1年生では IELTS キャンプに参加し、2年生からは AES コースを選択し、英語を使って学ぶという環境に身を置いていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから、初めにビザの申請に取り掛かりました。申請してから発行されるまでかなりの時間を要すると聞いていましたが、私の場合は申請後5分以内に認可されました。しかし、そのときの情勢など、さまざまな要因で発行が遅れる場合も考えられるため、ビザの申請は早めに行うほうが安心できると思います。何事も早くから準備しておくことが大切です。勉強面では、基礎的な知識を身につけるために文法を復習したり、YouTubeで英語を使用する配信者を見て、シャドーイングをしたり、常日頃からできるだけ多く英語に触れる機会を作っていました。

③ 現地到着後

現地にはオリエンテーションの2日前に到着しました。事前をお願いしていた送迎サービスを利用し、ゴールドコースト空港からホームステイ先まで送り届けてもらいました。同じプログラムに参加していた全員が1つの車で各自の家まで送迎してもらったため、空港内で必要なものを購入する時間の余裕はありませんでした。ホームステイ先に到着後、ホストファザーが近くのお店までつれて行ってくださり、そこでSIMカードとGO CARDを購入しました。到着したその日に、一人でビーチまで行き、オーストラリアに来たことを実感した瞬間は、私にとって忘れられないものとなりました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

グリフィス大学の敷地はとても広く、ジムやbar、テニスコート、カフェ、24時間利用可能な図書館など様々な施設が大学内に設置されていました。放課後は、カフェで友達と何時間も話すこともありました。語学学校の建物は、グリフィス大学の最寄り駅から徒歩5分ほどの距離にあり、交通の便が良かったです。大学周辺の治安も良く、図書館を利用して夜遅

くまで勉強に励む生徒もいました。困ったことがあれば、語学学校に通う生徒のための Help desk に何でも相談することができました。

b. 授業内容、課題、試験

課題は慣れるまでは多く感じました。対面授業での課題に加え、Independent Learning というオンラインで取り組む自習教材があり、1週間で5時間以上できるように計画的に取り組む必要がありました。自分の苦手な英語スキルに重点を置いて学習ができるため、効率的に苦手分野のスキル向上を目指せます。私は、DEP5 と 6 を経験しました。2つのクラスの違いは、課題の量と試験内容だと思います。DEP5 では、毎授業の課題と最後の week 5 の試験により成績が決定されますが、DEP6 では、加えて1週間ごとの課題や、week 3 の試験結果も踏まえて、それぞれの点数を合計して成績を出していました。DEP6 では、大学進学を目標としたよりアカデミックな内容を取り扱っていました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私はクラブ活動には参加していませんでしたが、GELI で開催されている様々なアクティビティに積極的に参加し、友達を作る機会を設けていました。また、ボランティア活動に興味があったためビーチクリーンボランティアにも参加していました。このボランティア活動は大学主催であり、GELI の生徒はほとんどおらず、グリフィス大学の大学生と親しくなる貴重な機会になりました。こういった活動は、ポスターが学内に掲示されたり、グリフィス大学のホームページや Instagram で告知されたりするため、情報収集が大切です。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先は、5人家族で猫を一匹飼っていました。留学生をよく受け入れている家庭で、台湾からの留学生もいました。シャワーは共同で、好きな時間に好きなだけ入っていると仰ってくださいました。朝ご飯はシリアルと紅茶、お弁当には果物とサンドイッチ、たまにスナックもいれてくださっていました。夜ご飯は主食がご飯やパンでなく、ステーキの日も多かったのが驚きました。ホームステイ先からトラムの駅までの距離が近かったため、徒歩とトラムで約30分かけて学校まで通っていました。トラムは遅延することがほとんどないため、安心して通学することができました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスから年明けにかけて約2週間の長期休暇がありました。そのためクリスマスにはブリスベンでプロジェクションマッピングを見て、友達の家で宿泊しました。年越しには2泊3日でシドニーに行き、オペラハウスからカウントダウン花火を楽しみました。人生で一度はシドニーのカウントダウン花火を見たいと思っていたので、夢が叶い、本当に素敵な経験ができました。さらに週末を利用して、バイロンベイ、ウルル(エアーズロック)、

帰国時にはケアンズにも訪れることができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

台湾出身のルームメイトと仲良くなり、紹介してもらった友人と共に、夜遅くまでゲームをして遊んだり、共に宿泊したり、クラスメイトとビーチに出かけ、何時間も時間の許す限り話をしたり、数えきれないほどの大切な思い出ができました。日本に帰る前の最後の授業日に、ずっと冗談を言いあっていた友人から、韓国語で手紙をもらいました。意味は教えてくれなかったけれど、後で調べてみると、感謝の言葉が書かれていました。素敵な友人がで、留学に行って良かったと心の底から思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

英語を用いたディスカッションに苦労しました。特に初めの1 か月は授業についていくことが難しく、満足な話し合いができずに常に周りの人達に申し訳なく感じていました。授業ではペアやグループディスカッションが多く取り入れられており、言いたいことが伝わらず顔をしかめられたり、「それだけ？」と言われてたりして、何度も心が折れそうになりました。しかし、この経験が英語を勉強するモチベーションに繋がりました。辛いこともたくさんありましたが、同じくらい楽しい思い出もあり、全てが私の成長のために必要な経験だったと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアの方々は早寝早起きでとても健康的な生活を送っている方が多いことに驚きました。私のホストファミリーも規則正しい生活を送っており、私も彼らの生活リズムに合わせて行動していたところ、集中力が高まり、日中の授業により専念することができました。また、お正月やクリスマスなどの行事に対する考え方の違いを実感しました。例えば、クリスマス当日はほとんどのお店が休業しており、家族で過ごす方がほとんどでした。年が明けて1月2日から授業が始まったことも衝撃を受けました。1月1日はシドニーで過ごし、その翌日から学校に行かなければならなかったため疲れがなかなか取れず大変な思いをしました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。授業でパソコンを使用するため、使い慣れたものを持っていくことをおすすめします。特に役に立ったと感じたものは、変換プラグ、スリッパ、日本の薬です。

変換プラグは2つ以上持っていくと便利です。例えば、寝ている間にスマホとパソコンを同時に充電しておくことも可能になります。オーストラリアの家は部屋の中でも土足で生活するため、お風呂上りなどにスリッパを履くようにしていました。他にも、体調が悪くなったときに備え、飲みなれた日本の薬を持ってきていたので体調を崩しても対処できるという安心感がありました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

この留学を経て、英語を使うことに対する躊躇いがなくなり、何事も積極的に行動できるようになりました。海外では、バックグラウンドの異なる人々が集まっているため、声に出さないと何も伝わりません。私の拙い英語を馬鹿にする人は誰もいませんでした。英語はコミュニケーションツールであり、伝えようと努力することが大切だと学びました。さらに、自分の意見を大切にすることの重要性を学び、他人の目をあまり気にせず行動できるようになりました。帰国後の TOEIC では、リスニング力が著しく上がっていました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は、プログラムの期間を最後まで悩み、最終的に 20 週間に決めました。悩んだ理由は 20 週間が長いと考えていたからです。しかし、実際に訪れて生活してみると、その時間は非常に短く感じました。日々、新しい文化や価値観、人と出会うことで、常に自分が更新されているような感覚になりました。時間を無駄にしないために、積極的に行動することが重要だと感じます。最初は緊張や不安を感じることも多いと思いますが、ぜひ、一歩踏み出してみてください。応援しています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路はまだ明確に決まっていますが、留学を通して培った英語力を生かせる職業に就きたいと考えています。英語で日誌を書いたり、English Chat Room を活用したり、日本にいてもできる学習を見つけて、英語に触れる機会を減らさないようにします。大学卒業までに TOEIC800 点を取得することができるように、今後も英語学習を続けていきたいと思っています。

V. 写真



↑スカイポイント展望台でスカイポイントクライムに挑戦したときの写真です。エレベーターで最上階まで登り、そこから建物の外に出て階段を上り、頂上を目指しました。夕日と夜景を眺めながらの挑戦は忘れられない思い出になりました。



↑ハロウィンに、ルームメイトと友達と一緒に近所の家をまわり、トリック・オア・トリートを楽しんだ時の写真です。仮装をした子どもたちに交じってお菓子をもらい、本場のハロウィンを体験することができました。

A. M.（英語英文学科・2 年次生）

1. 留学レポート

① 留学を目指した理由

大学入学当初は留学を考えていませんでしたが、入学後に留学を目指している友達が多くいたため影響を受け、1 年次生の秋学期から留学を考え始めました。また、大学の授業を受ける中で自分の英語力のなさを痛感し、ネイティブから習い英語力を高めたいと感じるようになったこともきっかけです。大学生活では他に資格取得などやりたいことがあったため 1 年留学ではないセメスター留学を選びました。

② 留学決定から出発までの準備期間

英語学習については、国際課が実施している英会話を利用して話す練習をしました。夏休みは英会話教室に通いカナダ人の先生から 1 回 2 時間の授業を週に 2 回受け、英語のラジオを聴いて英語に慣れるようにしました。

ビザの申請は自分でしました。書類のアップロードの段階で銀行の残高証明書が必要だと知り慌てて取りました。英文の残高証明書なので銀行によっては発行に数日かかることもあります。GTE（英文の理由書）と英文の残高証明書は準備しておくことをお勧めします。

③ 現地到着後

空港到着後すぐに、送迎をお願いしていたバスに乗りホームステイ先まで一人ずつ順番に送ってもらいました。ホームステイ先には到着予定時刻より 1 時間ほど遅れて到着しました。夕方にホストマザーにショッピングモールに連れていってもらい SIM カードと GO CARD を買いました。また学校のオリエンテーション前日に、ホストマザーに学校までの行き方を教えてもらいながらバスで学校に行ったので迷うことはなかったです。オリエンテーションでは施設の説明、Wi-Fi の接続方法を教えてもらいました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

大学前のバス停から語学学校の校舎までは大学内を 10 分弱歩きます。施設は掃除を毎朝してくれていて綺麗でした。図書館やジム、カフェも利用することができます。立地が良く放課後に海やテーマパークに簡単に行くことができました。先生やスタッフの方はとても親切で、困ったことがあれば丁寧に教えてくれました。定期的に先生と個人面談があり英語学習に関するアドバイスをもらうことができ良かったです。2 月は日本人留学生がたくさんいてクラスの半分は日本人でした。

b. 授業内容、課題、試験

授業内容は毎週トピックが決められていて、それについての文章や音声を聞きディスカッションをするということが多かったです。アカデミックな文章の書き方も習いました。授業の初めにテーマを与えられ、それについて一人で 2 分間話し続けるというものがありました。初めは何を話して良いか分からず沈黙も多かったのですが、繰り返し続けているうちに慣れてきて少しずつ話せるようになっていきました。私は 10 週間（2 ターム）でクラスのレベルが上がりましたが、そこまで授業内容やレベルは変わらないと感じました。課題は先生にもよりますがそれほど多くはなかったです。その日の授業の復習がほとんどでした。5 週間に 1 度クラス分けのための試験がありました。試験内容も普段の授業と同じような内容、難易度だったので特に対策をしなくても普通に授業を受けていれば大丈夫でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

グリフィス大学のダンスクラブに入ろうと思い参加届けをメールで提出しましたが、返事が来なかったので結局クラブには参加できませんでした。

週末に GELI が主催するアクティビティがあり友達と何度か参加しました。毎月 1 回学校からバスで人気の観光地へ連れて行ってくれます。個人的に行くよりお得に行けるのでお勧めです。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先は学校までバスで 25 分ほどのところでした。バス 1 本で通学でき、通学途中にアウトレットモールがありなんでも買うことができて便利でした。ホストマザーとマレーシア人のルームメイトと犬と暮らしました。犬がとても可愛くて毎日癒されました。マザーもルームメイトもとても優しく親切にしてくれました。バスタオルや洗濯ネット、ハンガーやドライヤーなども用意してくださっていました。また、留学生専用のトイレとシャワールームもありました。洗濯は基本的に 1 週間に 1 回でした。平日はお昼ご飯にサンドウィッチを作って持たせてくれました。夜ご飯は毎日ホストマザーが作ってくださり、一緒に一日の出来事などを話しながら食べました。とても良い環境で快適に過ごすことができ恵まれていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマス前から年始まで 2 週間ほど休みがありました。クリスマスはホストハウスに親戚が集まっていました。私は友達の家でパーティーをして楽しみました。オーストラリアでは新年よりも、クリスマスを盛大に祝うそうです。年末年始は 3 泊 4 日でシドニーへ友達と旅行に行きました。オペラハウスでオペラを鑑賞後、バルコニーからカウントダウン花火を観ました。素敵な思い出ができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

テーマパークに行ったりコアラを抱っこしたり、ビーチでアサイーボールを食べたりとオーストラリアライフを満喫することができました。ホームステイ先の犬と遊んだりホストマザーと犬の散歩に公園に行ったりと、日常の些細なことも楽しい思い出です。1 番の思い出は世界遺産ウルルを訪れたことです。日の出は本当に幻想的で神秘的でした。ウルルを触ることができたこと、実際に訪れた人しか見られないウルルの裏側を見ることができたことは一生の思い出となりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初の 1 ヶ月は毎日が刺激的で楽しくワクワクした気持ちばかりでしたが、その後からは大変だと感じることもありました。ホストマザーとうまく会話が噛み合わず少し悪い雰囲気になってしまったことがありました。言いたいことがあるのに英語でなんと言っているかわからずに言えないというもどかしい気持ちもたくさん感じました。最も苦労したことは、到着後すぐに SIM カードの設定をしなければいけなかったのですが、うまくいかなかったことです。会社に電話をしてやり方を聞いたのですが、何を言っているのか全く聞き取れませんでした。私の英語も聞き取ってもらえませんでした。日本人スタッフの方に通訳をしてもらいながらなんとかできました。留学初日から英語力のなさを痛感し、これから暮らしていけるのかとても不安になりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

バスは手を上げないと止まってくれないこと、今どこのバス停にいるのか車内アナウンスがないことに驚きました。他にもバスが不定期で無料になることがあり不思議に思いました。その理由はホストマザーも学校の先生も知りませんでした。また、運転手さんが自分のスマホでスピーカーを通して音楽をかけていたり、バスの中でギターを弾きながら歌っているおじさんがいたりしました。周りの乗客も何も気にする様子がなく日本ではあり得ない光景だと思いました。店が閉まる時間が日本よりもずいぶん早かったです。ショッピングモールも午後 6 時には閉まってしまいます。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。パソコンやスマホ充電には変換プラグが必要なので 2 個ほど持って行くといいと思います。変圧器は持っていきましたが全く使わなかったです。授業では紙ではなく全てパソコンを使用するので、書き込みができるパソコンを持っている場合はタ

タッチペンがあると便利だと思います。私のホストハウスは洗濯が1週間に1回というルールだったので、1週間分の下着と服を持ってきておいて良かったと思いました。10月はまだ寒い日が多かったので長袖や上着が役立ちました。日焼け止めは日本から送ることができない品物なので、お気に入りがある場合は半年分持っていった方が良いと思います。意外と雨の日が多かったので折りたたみ傘が必要でした。クレジットカードは2、3枚持つていく方が安心です。毎月ホームステイ費用の支払いがあるのでカードを使い分けないとすぐに限度額に達してしまいます。ホームステイ費用は親のカードで決済していました。逆に現金はキャッシュレス社会のオーストラリアでは使う機会がなく、最後に使い切るのが大変だったので本当に少しで良いと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力は本当に伸びたと思います。帰国直前にはホストマザーの話していることも1度でほとんど理解できるようになっていました。ホストマザーとルームメイトから英語力がアップしていると言われて嬉しかったです。スピーキングについてもネイティブな表現を身に付けることができました。留学前より英語で話すことに抵抗がなくなりました。帰国後に受験したTOEICはリーディング、リスニング共にスコアアップしていました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を終えた今、本当に行って良かったという気持ちでいっぱいです。英語力を伸ばすことを1番の目的として留学しましたが、それ以上にたくさんのことを学び、経験し、得ることができました。留学を通して語学力の向上だけでなく精神面における成長も実感しています。そして何より、外国に大切な存在ができたことが大きな喜びです。留学前はいろいろな不安もあると思いますが、勇気を出してぜひ行ってみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだはっきりと決まっていませんが、英語を活かした職業に就けたらいいなと考えています。

V. 写真



↑世界遺産ウルルの写真です。実際に見たウルルは写真の何倍も美しいところでした。特に日の出は幻想的で感動しました。星空もとてもきれいでした。オリオン座が日本と逆転して見えていたのが印象的でした。

A. S.（英語英文学科・2 年次生）

1. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は小学校 6 年生の時に英語を学び始めたことで海外に興味を持つようになり、中学生の時に中国にて初めての留学を経験した。しかしその後、コロナウイルスの流行により高校時代に留学へ行くことは叶わなかった。大学に入り部活動やバイトに明け暮れていた 1 回生の終わり、春休みの時期に留学の募集が再開していることを聞き、絶対行きたい！！という思いが再燃し国際課へ資料を取りに直行した。

② 留学決定から出発までの準備期間

語学学習に関しては留学に関する手続きや部活動のイベント・練習・統括と学校の課題や授業、バイトで毎日カツカツなスケジュールであったため、正直プラスアルファで計画した勉強をすることはできなかった。ビザの申請手続きはエージェントに頼むとお金がかかりかかるため、自分の経験のためにも自分で手続きをした。しかし想像以上に難しく複雑でかなり時間の要する手続きであったため、とてつもなく苦勞した。全体的に書類等の準備が遅く、ギリギリになってしまい渡航前から焦るばかりの毎日だった。しかし、書類が完成し、提出、最後に承認された時の達成感はとても大きく、自分の中での自信となった。

③ 現地到着後

空港からホストファミリーの家までは他の同女生と一緒にホームステイ会社の方が車で送迎をしてくれた。長旅の疲れから車内ではぐっすりと寝てしまい、1 時間ほどの移動はあっという間だった。ホストファミリーが日中は全員働いている家庭だったため、在宅勤務のホストシスターに Wi-Fi だけ教えてもらい、国際課と母へ安着連絡をした後、荷物の整理をしながら帰りを待った。右も左もわからない恐怖で気持ちはふさぎ込んでしまっていたが、何か行動はしなければと焦りも感じていて、一足先に留学をしていた友達や母に励まされ、SIM カードが無い中、携帯の自分の位置情報だけで語学学校へと向かった。徒歩合計 3 時間の少し長めの冒険だったが、メンタルが強くなったように思う。ホストマザーの帰宅後、彼女は私を SIM カードと GO CARD(交通系 IC カード)を買いに連れ出してくれた。その道中でバスでの学校への行き方、使い方等も教えてくれたが、オーストラリアなまりの発音の聞き取りが予想以上に難しく、会話につまずいた。SIM カードの手続きは主にホストマザーが手伝ってくれたが、日本のクレジットカードが使えない SIM カードもあり、手間取った。オリエンテーション前日に語学学校を訪れ、Wi-Fi の設定等を先生に聞き教えてもらった。オリエンテーション日にも Wi-Fi や授業で使うアプリの説明会は行われるが、多数の生徒がいてかなり時間を要するため、前日に来てくれて助かった。と言ってもらった。ど

の先生もとても優しく、これからの学校生活に対して少し安心できた。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

施設には誰でも利用できる図書館やカフェ、ジム、テニスコート、ビーチバレーコートなど、学習場所のみならず、運動をしてリフレッシュできるような環境も整っていた。スタッフの方も全員とても優しく、助けを求めると必ず丁寧に対応してくれた。私は留学中にパソコンが壊れ、新しいパソコンを現地で購入したのだが、学校にインターネットの専門家がいてくれたおかげで英語表記での初期設定も無事に乗り越えることができた。

b. 授業内容、課題、試験

授業ではテキストに従い、時事ネタのような記事を読むような学習方法が主であった。その中で出てきた文法等をかいつまんで練習問題にも取り組んだ。レベルごとにクラスが分かれており、DEP 4 までのクラスは文法や日常会話レベルの学習を、DEP 5 以上はよりアカデミックな Writing の学習等がメインだった。試験は 5 週間毎に 4 技能それぞれ行われ、その点数によって次のタームのクラスが決まった。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブには所属しなかったが、語学学校のアクティビティには積極的に参加するように心がけた。毎週開催されるアクティビティは、無料 BBQ から隣の州への遠足、動物園、学校でのビーチバレーボールなど様々な形で開催されるため、色々な経験ができた上に他のクラスの友達もたくさん作ることができた。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先はオーストラリア人の家庭で、学校までの通学時間はバスやトラム(路面電車)で 1 時間ほどだった。ホストファミリー全員が働いていたため、私が学校のために起きる 7 時頃にはほぼみんな出発しており、朝食はフルーツやヨーグルト、シリアル、パンなど自分で用意をして食べた。自炊が苦手な私にとって最初はとても苦労したが、だんだん要領もつかんできて最後のほうは苦なくできるようになった。夕食は 18 時~19 時頃に家族全員そろって食べた。夕食づくりは日替わりで作る人がローテーションしていて、私も一緒に作ることもあった。オーストラリアは水不足と聞いていたが、湯船につかることは無くてもシャワーは不自由なく使えることができた。洗濯機は日本のものとメーカーが違うのか、服やタオルが傷みやすかった。お酒落着を持っていくことはあまりおすすめしない。

⑦ 長期休暇の過ごし方

年越しの 12 月後半に 2 週間ほどの休みがあり、地域のイベントに積極的に足を運んだり、

シドニーに旅行に行ったりした。シドニーで年越しをして、オペラハウス、ハーバーブリッジの近くで花火を見た。旅行の手配等をすべて英語ですることはなかなか大変だったが、無事に楽しむことができ、2024 年の始まりはシドニーで大迫力の花火とともに迎え、一生忘れられない年越しとなった。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も思い出に残っていることは私の誕生日だ。11 月にあった私の誕生日にホストファミリーがケーキを手作りしてくれて手紙とオーストラリアの全ての絶景が載った本をプレゼントしてくれた。血も繋がっていないし、言語も違うけれど、自分のことをこんなにも大切に思ってくれる人が外国にもいるということを知れて嬉しかったし、同時に自分を認めてくれている人がこんなにもいることを認識出来て自分の自信にもなった。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

正直右も左も何もわからず苦戦だらけの毎日だったが、その中でも最も苦労したことはホストファミリーやローカルの人々との会話だった。オーストラリアの英語はイギリス英語に近く、しかしイギリス英語とも発音が違うということは留学前の授業で習っていたが、当時日本でイギリス人の先生の授業にはついていけていたので大丈夫だろうと安心してあまり発音やスラングに関しては勉強せずに渡航してしまった。そして現地についてホストファミリーと会った時、彼らの英語を全く聞き取れず、そして私の英語も全く聞き取ってもらえず絶望した。普段の会話ができないこと、自分の意志をなかなか伝えられないことは生活する上でとても困ったし、自分が受け入れられていないような気がして精神的にも辛かった。しかしホストファミリーの諦めずに一生懸命向き合ってくれる姿に背中を押され、留学後半には日常会話程度ならスムーズに話すことが出来るようになった。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

毎日日本では考えられないような光景を目撃し、刺激的な毎日だった。中でも驚いた、感心したことは、夕食を毎日決まった時間に家族みんなで食べていたことだ。バスなどの公共交通機関が遅れるなど時間にルーズな人も多くいたが、家族との時間だけは絶対に大切にしている家庭が多かった。夕食の料理担当は毎日ローテーションで、夕食は必ず全員で食べる。献立は休日に家族で話し合っ決めて、週末に1週間分の材料をまとめて買っていた。家族との時間を大切に考え、夕食を全員で食べる家庭が多いため、ショッピングセンターでさえも17時には閉まってしまう。州全体でそういう暗黙の了解の習慣があることに驚いたし、家族の存在のありがたみを再確認できた。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

- ・変換プラグ複数個(O タイプ)
- ・携帯(オーストラリア専用の2台目)
- ・パソコン(しかし途中で故障したため現地で新しいパソコンを購入した)
- ・固形の髪まとめ

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は全体的に伸びていて、中でも Listening と Speaking 能力が格段に上がった。またこの留学は自分自身を変えたくて行こうと決意した留学でもあり、今まで当たり前だと思っていた日常の中でありえないことをたくさん目の前にして視野がとても広がった。また語学学校には同級生だけでなく様々な経歴をもった大人もたくさんいて自分がしたいと思ったことに全力を注いでいる姿を目の当たりにして自分の瞬間を全力で楽しむことの大切さに気付いた。留学前は細かく完璧主義だったがおおざっぱなオーストラリア人らと過ごすうちにまあなんとかなる、大丈夫と思える気持ちも強くなった。そして何より自分に自信の無く周りの意見ばかり気にしていた私だったが、これが私だと胸を張って言えるようになった。私の人生の中で大きな転機といえるほど大きく成長できた留学であった。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

おそらくこれはたくさんの先輩が口を揃えて言っているとは思いますが、本当に留学前の手続きは早めに取り掛かるべきです。直前で大丈夫だと後回しにしないでください。はやめというのは1週間ではなく月単位。渡航前不安でいっぱいの中余計な心配事や焦りの要因を自分で作らないことが大切です！それから英語力を上げたい人、外国人の友達を作りたい人、成長したい人、少しでも変わりたい人は現地に着いたらなるべく日本人で固まらないようにしましょう。私自身一人で何もわからない中行動することとても不安だけではあったけれど、とりあえずどんな反応をされても自分から挨拶や声をかけ続け、今では親友と胸を張って言える友ができました。特に語学学校には夢や希望で満ち溢れた素敵な仲間がたくさんいます。せっかくの出会いの機会、成長のチャンスを逃さないように一歩勇気を出して行動してみてください。目の前の不安という霧が、ある日突然一気に晴れるはずですよ。大丈夫。頑張れ。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来のお仕事に関しては正直まだ決め切れていません。しかし、留学を通して視野が一気に広がったことは間違いなく、さらに世界中の人々と繋がれるようなお仕事がしたいなど考えるようになりました。それを叶えられるように、英語の勉強を引き続き頑張りたいと思います。

V. 写真



この写真はいつもの通学路で帰り道に韓国人の親友と撮った写真です。最初は私からバス停で声をかけて仲良くなりました。あの時勇気を出して声をかけて本当に良かった。彼女とは毎日一緒に通学をして放課後も一緒に勉強したり自然を感じたりしました。課題に追われ、ホストファミリーとうまく会話ができず、他のことでも落ち込む日がどれだけ続いても、彼女がいてくれたおかげですべて乗り越えることができました。一人じゃないと思わせてくれて、私を支えてくれていた大切な友人の一人です。国境を越えてこんなにも素敵な友に出会えたことも私の宝物です。